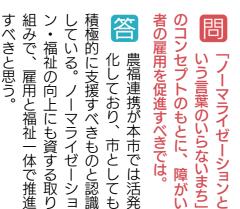
## 常任委員会 / 活動ほうこく



のでは。

者の働き方にもつながる

テレワークは、

Uタ

## テレワーク環境整備は

市内のテレワークの状況は、

住み分けも考慮しつつ検討を行 整備について、民間事業者との 歯止めにもつながる。空き校舎

ターンは、

少子高齢化の

20代後半での転職なきし

などへのコワー

キングスペース

スを活用している事業者もあっている。コワーキングスペー 一定数が活用していると認 市としてのサポー 網羅的な調査はないもの トは

農福連携で進められるユズの選別作業

と思います。生ごみなどを使う とから慎重に進める必要がある 題や次世代型太陽電池もあるこ

バイオガス発電、

水力発電

テレワークを含めた多様 な働き方の確保は人材不

脱炭素先行地域について

財政調整基金について



先行地域について」を市役所内で調査しま 総務常任委員会は、12月9日、「脱炭素

現する農林水産業振興」をめざし、

陸前

本市の計画は「脱炭素と資源循環で実

充電ステーション設置等となります。

対象地域は被災跡地活用の高田・今泉の

車両「モビタ」の追加導入と電気自動車の

クレジット発行。

現在も運行しているEV

局田しみんエネルギー株式会社他23者を

定されると、その取り組みに対し交付金が

措置されます。

た。

脱炭素先行地域とは地球温暖化の原因と

行地域に認定されました。その内容を髙

共同提案者とするもので、

昨年9月に先

アの横田地区、漁業脱炭素化モデル施設群 中心市街地エリア、森林・水資源活用エリ

として広田湾漁業協同組合等です。

橋良明政策推進室長、松木翔企画主査お

通じて、 を実現する地 力と質の向上 る取り組みを 実質ゼロとす 先行地域に認 施する脱炭素 域のことです。 を解決し、魅 素の排出量を なる二酸化炭 課題

役大林孝典氏から説明を受けました。

主な取り組み内容は、ポット式根域制限

よび、陸前高田しみんエネルギ

- ㈱取締

委員会として今後も継続し、

調査をするこ

業費約58億円の巨大プロジェクトでもあり

令和11年度までを事業期間とする総事

ととしました。

所管事務調査



営農強化型太陽光発電×ポット式根域制限栽培

傍聴者

こちらから視聴できます

き tiら あきら 木村 聡 (とうほく未来創生)

ーマどう活用

雇用と福祉一体で推進



ボイラーの導入や蓄電池の活用

に共感を覚えました。 EV充電

小友町の菅野聡さんに感想を伺今回は常任委員会を傍聴した いました。

> 地区にも設置できるといいです ステーションは計画区域外の各

て当局に説明を求めた12月9日炭素先行地域の取り組みについ の総務常任委員会です。 菅野さんが傍聴 したのは、 脱

さをなくす配慮がなされていま

した。それは議員の担う責任が

大きいからこそだと思います。

私はとても貴重な体験をし

質疑の時間を十分に取り、

曖昧

会議の進行には無駄がなく、

工会とも連携し、事業者への多足の解消にもつながるため、商

様な働き方の周知・支援策につ

いて検討したい



(農業・36歳)

ことをもったいないと感じまし ましたが、傍聴者が一人だった

市民は市の多くの政策討論 議会の傍聴は市民の権利で

願います。 あると思います。 を見聞きし、関心を持つ必要が

が市政の発展につながることを 今回の委員会で話されたこと

陸前高田しみんエネルギ

ー の 職

太陽光発電はパネル廃棄の問

人が説明していました。

議員5人に対し、市職員2人と

当日は委員会に所属している

委員長 \_中 野 徳 貴 副委員長 木 村 聡 大和田加代子 治也 泰昌 倉 浦

財政調整基金について

意見交換を行いました。今後も皆さんの 業者の方々とそれぞれ語る会を開催 調整基金について、まちなか会、 お話を伺う場を作っていきたいと思います これまで継続して調査をしている財政 宿泊事

田地区中心部地域マイクログリッド構築、

導入促進、メタン発酵バイオガス発電、 電」、 木質バイオマスエネルギー利用設備の 業を組み合わせた「営農強化型太陽光発 栽培を採用した果樹栽培と太陽光発電事

小水力発電、電気保安人材の育成、森林ク

レジットおよび、

広田湾の藻場を活用した